准教授　**藤井　光**　FUJII,　Hikaru

1.　略歴

1998 年 4 月　北海道大学文学部人文科学科　入学
2002 年 3 月　同　卒業
2002 年 4 月　北海道大学大学院文学研究科修士課程　入学
2004 年 3 月　同　修了
2004 年 4 月　北海道大学大学院文学研究科博士後期課程　進学
2007 年 3 月　同　修了　博士（文学）
2007 年 4 月　日本学術振興会特別研究員（PD）
2009 年 4 月　同志社大学文学部助教
2013 年 4 月　同志社大学文学部准教授
2018 年 4 月　同志社大学大学院文学研究科博士前期課程准教授
2019 年 4 月　同志社大学大学院文学研究科博士前期課程教授
2021 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2.　主な研究活動

a　主要業績

(1)　博士論文

The Nomadic Atlas: Formation and Becoming of Self in Contemporary American Fiction、北海道大学、2007 年 3 月、全 302 頁

(2)　単著

Outside, America: The Temporal Turn in Contemporary American Fiction, Bloomsbury, 2013, 140pp.
『ターミナルから荒れ地へ　「アメリカ」なき時代のアメリカ文学』、中央公論新社、2016 年、全 265 頁
『21 世紀×アメリカ小説×翻訳演習』、研究社、2019 年、全 197 頁

(3)　編著

『文芸翻訳入門　言葉を紡ぎ直す人たち、世界を紡ぎ直す言葉たち』、フィルムアート社、2017 年、全 276 頁、11-51、159-187 頁担当

(4)　共著

中良子編『災害の物語学』、世界思想社、2014 年、全 336 頁、「災害の「いま」をめぐって―アメリカと物語・戦争・動物」、130-150 頁担当
宮下志朗、小野正嗣編『世界文学への招待（放送大学教材）』、放送大学教育振興会、2016 年、第二章、第三章担当（24-59 頁）
Leo Loveday and Emilia Parpala (Ed.), *Ways of Being in Literary and Cultural Spaces*, Cambridge Scholars Publishing, 2016, 234pp. "21st Century American Identity and the Road Narrative", pp. 134-142 担当
富士川義之編『ノンフィクションの英米文学』、金星堂、2018 年、全 438 頁、「虚構にとっての他者　現代作家におけるノンフィクションと「偽装」をめぐって」、406-421 頁担当
藤井光他 6 名『本にまつわる世界のことば』、創元社、2019 年、全 112 頁、2-3、20-23、34-37 頁担当
石原剛編『空とアメリカ文学』、彩流社、2019 年、全 297 頁、「ロードから共感、資本から監視へ―二十一世紀小説における「空」」、265-292 頁担当
中山悟視編『ヒッピー世代の先覚者たち　対抗文化とアメリカの伝統』、小鳥遊書房、2019 年、全 328 頁、「ニルヴァーナとバーニングマン―ヒッピー世代の後輩としてのふたりの 21 世紀作家の振る舞い」、297-320 頁担当

(5)　論文

"From Solitude to Solidarity: Paul Auster's *In the Country of Last Things*"『北海道英語英文学』、48 号、2003 年、53-64 頁
"A World Beyond Reach: Paul Auster's Poetry", *The Journal of the American Literature Society of Japan*, No.2, 2004, pp. 91-106
"Paul Auster by Paul Auster: Dialogic Self-Representation in *Hand to Mouth*"『北海道アメリカ文学』20 号、2004 年、19-35 頁
"In the Shadow of Lady Liberty: The Subject of Resistance in Paul Auster's *Leviathan*", *Studies in English Literature*, No. 46, 2005, pp. 177-197

"Where the Tide Rises and Ebbs: Power, Becoming, and 'America' in Steve Erickson's *Rubicon Beach*,", *The Journal of the American Literature Society of Japan*, No. 4, 2006, pp. 57-73

"Journey to the End of the Father: Battlefield of Masculinity in *The Mosquito Coast*", *Critique*, Vol. 48 No. 2, 2007, pp. 168-183

「斬首からの風景：現代アメリカ小説における地図作成者たち」『北海道アメリカ文学 』、23 号、2007 年、15-28

"Time and Again: The Outside and Narrative Pragmatics in *The Body Artist*"『関東英文学研究』、1 号、2009 年、1-16 頁

「クリシェと外部の問題―分身のスタイル学に向けて」『れにくさ』1 号、2009 年、121-142 頁

"The American Traveler's Love And Solitude: *The Atlas*, or William T. Vollmann's Pragmatics of the Double", *Amerikastudien /American Studies*, Vol. 53, No. 4, 2009, pp. 507-520

"A Man with a Green Memory: War, Cinema, and Freedom in Stephen Wright's *Meditations in Green*", *Arizona Quarterly*, Vol. 65, No. 2, 2009, pp. 117-135

"Nietzsche, Crime Fiction, and the Question of Masculinity in Denis Johnson's *Already Dead: A California Gothic", Doshisha Literature*, No. 52&53, 2010, pp. 1-22

"Writing from a Different 'Now': Question of Ahistorical Time in Contemporary Los Angeles Fiction", *Journal of Contemporary Literature*, Vol. 2, No. 2, 2010, pp. 71-88

"Let the Story Begin: Cinematic Field and Narrative Act in Richard Powers's *Prisoner's Dilemma*"『同志社アメリカ研究』、47 号、2011 年、31-50 頁

「The Land of the Freeway: ロサンゼルスとアメリカン・ロード」、『北海道アメリカ文学』、27 号、2011 年、19-32 頁

「十字路とアメリカ：リチャード・パワーズと多和田葉子における「交点」の文学について」、『れにくさ』、5 号第 2 分冊、2014 年、152-168 頁

「オリジナルなき翻訳の軌跡：ダニエル・アラルコンとアレクサンダル・ヘモンにおける複数言語と暴力性」、『文学』、17 巻 5 号、2016 年 9 月、114-132 頁

「「偶然の土着性」と二一世紀アメリカ作家たち：交換と共感をめぐって」、『クライテリア』、2 号、2017 年、8-17

"Voices Between Here and There: Writing and Translating America in Contemporary American Fiction", *World Literature and Japanese Literature in the Era of Globalization: In Search of a New Canon: Does It Make Sense to Discuss World Literature in Tokyo?*, 2018, pp. 67-73

(6) 小論・書評等

（連載エッセイ）「翻訳をめぐる翻訳」、『NHK ラジオ　英語で読む村上春樹　世界のなかの日本文学』、2014 年 4 月号～2015 年 3 月号（10 月号を除く）

（文庫解説）小野正嗣『獅子渡り鼻』、講談社、2015 年、168-177 頁

（項目執筆）「アメリカ文学」『文藝年鑑 2016』、新潮社、2016 年、69-71 頁

（項目執筆）「アメリカ文学」『文藝年鑑 2017』、新潮社、2017 年、69-71 頁

（責任編集企画）「特集：アメリカ文学は敷居が高いのか？」、『EYESCREAM』、2017 年 12 月号、18-79 頁（翻訳・共訳・記事執筆も担当）

（項目執筆）「アメリカ文学の翻訳」、『アメリカ文化事典』、丸善出版、2018 年、588-589 頁

（特集記事）「観光客と難民のあいだで：移動と共感をめぐる 21 世紀アメリカ小説」、『北海道アメリカ文学』35 号、2019 年、29-39 頁

（解説）「「日常」に潜む歪みを照らし出し、読者を引き込む十二篇の物語たち」、ナナ・クワメ・アジェイ＝ブレニヤー『フライデー・ブラック』押野素子訳、駒草出版、2020 年、314-320 頁

(7) 翻訳

（単行本）

デニス・ジョンソン『煙の樹』、白水社、2010 年、全 658 頁

ウェルズ・タワー『奪い尽くされ、焼き尽くされ』、新潮社、2010 年、全 271 頁

サルバドール・プラセンシア『紙の民』、白水社、2011 年、全 284 頁

ラウィ・ハージ『デニーロ・ゲーム』、白水社、2011 年、全 291 頁

ダニエル・アラルコン『ロスト・シティ・レディオ』、新潮社、2012 年、全 347 頁

『クリス・ボルディック編　ゴシック短編小説集』、春風社、2012 年、大沼由布、石塚則子、金谷益道、下楠昌哉との共訳　41-64、381-386、489-552 頁

テア・オブレヒト『タイガーズ・ワイフ』、新潮社、2012 年、全 382 頁

ロレンス・ダレル『アヴィニョン五重奏 I ムッシュー　あるいは闇の君主』、河出書房新社、2012 年、全 344 頁

ロン・カリー・ジュニア『神は死んだ』、白水社、2013 年、全 240 頁

ロレンス・ダレル『アヴィニョン五重奏 II リヴィア　あるいは生きながら埋められて』、河出書房新社、2013 年、全 304 頁
ロレンス・ダレル『アヴィニョン五重奏 III コンスタンス　あるいは孤独な務め』、河出書房新社、2013 年、全 438 頁
ロレンス・ダレル『アヴィニョン五重奏 IV セバスチャン　あるいは情熱の争い』、河出書房新社、2014 年、全 240 頁
セス・フリード『大いなる不満』、新潮社、2014 年、全 200 頁
ポール・ユーン『かつては岸』、白水社、2014 年、全 256 頁
ロレンス・ダレル『アヴィニョン五重奏 V クインクス　あるいは暴かれる秘密』、河出書房新社、2014 年、全 226 頁
ダニヤール・ムイーヌッディーン『遠い部屋、遠い奇跡』、白水社、2014 年、全 309 頁
マヌエル・ゴンザレス『ミニチュアの妻』、白水社、2015 年、全 283 頁
ダニエル・アラルコン『夜、僕らは輪になって歩く』、新潮社、2016 年、全 381 頁
アンソニー・ドーア『すべての見えない光』、新潮社、2016 年、全 528 頁
ハサン・ブラーシム『死体展覧会』、白水社、2017 年、全 198 頁
レベッカ・マカーイ『戦時の音楽』、新潮社、2018 年、全 318 頁
ミロスラフ・ペンコフ『西欧の東』、白水社、2018 年、全 306 頁
デニス・ジョンソン『海の乙女の惜しみなさ』、白水社、2019 年、全 235 頁
スティーヴン・クレイン『勇気の赤い勲章』、光文社、2019 年、全 281 頁
ニック・ドルナソ『サブリナ』、早川書房、2019 年、全 205 頁
ヴィクター・ラヴァル『ブラック・トムのバラード』、東宣出版、2019 年、全 167 頁
モーシン・ハミッド『西への出口』、新潮社、2019 年、全 189 頁
コルソン・ホワイトヘッド『ニッケル・ボーイズ』、早川書房、全 269 頁
リン・マー『断絶』、白水社、全 348 頁

（雑誌等掲載）

ジェームズ・T・ファレル「僕はブラックソックスを覚えている」、『モンキー・ビジネス』1 号、2008 年 4 月、48-61 頁
レベッカ・マカーイ「ブリーフケース」、『文學界』2012 年 11 月号、110-117 頁
ベン・ファウンテン「十一本の指のための幻想曲」、『文學界』2013 年 1 月号、92-111 頁
テア・オブレヒト「青い海の精霊たち」、『新潮』2013 年 3 月号、119-133 頁
ダニエル・アラルコン「洪水」、『文學界』2013 年 4 月号、84-94 頁
ミロスラヴ・ペンコヴ「西洋の東」、『文學界』2013 年 6 月号、60-80 頁
カレン・ラッセル「帝国のための糸繰り」、『文學界』2013 年 8 月号、80-101 頁
ウェルズ・タワー「純水」、『文學界』2013 年 11 月号、54-78 頁
タマシュ・ドボズィ「包囲」、『文學界』2014 年 2 月号、126-139 頁
セス・フリード「微小生物集」、『新潮』2014 年 3 月号、115-140 頁
デイヴィッド・ミッチェル「ミスタードーナツによる主題の変奏」、『Granta Japan with 早稲田文学 01』、2014 年、43-67 頁
マヌエル・ゴンザレス「操縦士、副操縦士、作家」、『文學界』2014 年 5 月号、92-105 頁
ラジェシュ・パラメスワラン「ラジュ・ゴパララジャン医師の奇妙なキャリア」、『文學界』2014 年 7 月号、112-126 頁
ラッセル・ホーバン「ジンギス・カーンの幻の馬」、『Number Do』2014 年夏号、116-119 頁
ローラ・ヴァンデンバーグ「南極」、『文學界』2014 年 9 月号、152-173 頁
「パレスチナは、物語一つ向こうにある　『ガザ・ライツ・バック』より」（選訳・解説）、『早稲田文学』2014 年冬号、156-161 頁
ダニエル・アラルコン「橋」、『Granta Japan with 早稲田文学 02』、2015 年、107-141 頁
クリス・ヴァン・オールズバーグ「オスカーとアルフォンス」、『ハリス・バーディック年代記　14 のものすごいものがたり』河出書房新社、2015 年、145-152 頁
ロイ・キージー「待ち時間」、『早稲田文学』2015 年冬号、76-87 頁
レベッカ・ウェスト「パルテノペ」、『ベスト・ストーリーズ I　ぴょんぴょんウサギ球』、早川書房、2015 年、355-401 頁
セス・フリード「また会えたね」、『MONKEY』8 号、2016 年 2 月、80-85 頁

ミロスラヴ・ペンコヴ「血の金」、『GRANTA JAPAN with 早稲田文学』3 号、2016 年、233-252 頁
マーク・ヘルプリン「マル・ヌエバ」、『ベスト・ストーリーズ II　蛇の靴』早川書房、2016 年、329-382 頁
メアリー・ルーフル「無限のネズミ大学」、『MONKEY』9 号、2016 年 5 月、85 頁
セス・フリード「宇宙を旅する大冒険」、『すばる』2016 年 8 月号、204-213 頁
スティーヴン・キング「プレミアム・ハーモニー」、『ベスト・ストーリーズ III　カボチャ頭』早川書房、2016 年、321-339 頁
アダム・ジョンソン「ニルヴァーナ」、『Them magazine』2016 年 10 月号、92-101 頁
Refugee Tales（抄）（選訳・解説）、『早稲田文学』2016 年秋号、48-69 頁
レベッカ・マカーイ「惜しまれつつ世を去った人々の博物館」、『新潮』2017 年 8 月号、93-112 頁
ヴィクター・ラヴァル「想い出のスカフタフェットル」、『Them magazine』2017 年冬号、73-78 頁
ディーパク・ウニクリシュナン「湾岸からの帰還」、『EYESCREAM』2018 年 7 月号、7 頁
テジュ・コール「寓話」、『EYESCREAM』2018 年 9 月号、6 頁
ルーカス・サウスワース「ここじゃみんな銃を持ってる」、『EYESCREAM』2018 年 11 月号、6 頁
R. L. スティーヴンソン「マークハイム」、アーノルド・ベネット「不老不死の霊薬」、『芥川龍之介選　英米怪異・幻想譚』岩波書店、2018 年、45-66、175-185 頁
ユウコ・サカタ「こちら側で」、『すばる』2019 年 2 月号、270-293 頁
ジェン・シルヴァーマン「白人たち」、『新潮』2019 年 3 月号、67-83 頁
エイミー・ボナフォンズ「天国は天国でも」、『Vostok』2019 年春・夏号、174-184 頁
ナナ・クワミ・アジェイ＝ブレニヤー「フライデー・ブラック」、『Vostok』2019 年秋・冬号、162-167 頁
セコイア・ナガマツ「少女ゼロ」、『Vostok』2020 年春・夏号、204-213 頁
オルハン・パムク「偉大なパンデミック文学が私たちに教えてくれること」、『文藝』2020 年秋号、411-416 頁

⑻　**研究発表・講演等**

「「私の中の他者たち」―『最後の物たちの国で』における複合的自己の寓話」（日本アメリカ文学会北海道支部第 12 回大会、札幌大学）、2002 年 12 月
「彼自身によるポール・オースター：自伝 *Hand to Mouth* における自己への問い」（日本英文学会北海道支部第 48 回大会、北海道大学）、2003 年 10 月
「「最後の男と最初の家族」：*The Mosquito Coast* におけるマスキュリニティの戦場」（日本英文学会第 77 回大会、日本大学）、2005 年 5 月
「この男たちのすべてを語らないために―現代アメリカ小説とマスキュリニティ」（日本アメリカ文学会第 44 回大会シンポジウム II、北海学園大学）、2006 年 10 月
「ジョセフは真夜中の庭で：Anthony Doerr の“The Caretaker”における生成の場所」（日本英文学会北海道支部第 51 回大会シンポジウム、北海道大学）、2006 年 10 月
「未知なる地図に仕える者たち：現代小説におけるアメリカ的時空間」（日本アメリカ文学会北海道支部第 16 回大会シンポジウム、藤女子大学）、2006 年 12 月
“The Body and Its Double” (49th Annual Midwest MLA Convention, Mariott Hotel Cleveland)、2007 年 11 月
「Los Angeles Time(s)―現代 L.A.文学と分身の時間」（日本アメリカ文学会第 48 回全国大会、秋田大学）、2009 年 10 月
「歴史に対する物語の作法：Daniel Alarcón と *Lost City Radio* をめぐって」（第 55 回日本英文学会北海道支部大会、北海道大学）、2010 年 10 月
「The Land of the Freeways：ロサンゼルスとロード・ナラティヴ」（日本アメリカ文学会北海道支部第 20 回支部大会シンポジウム、北星学園大学）、2010 年 12 月
“Voices from Outside: The Case of Contemporary American Fiction” (The Contemporary: An International Conference of Literature and the Arts, Nanyang Technology University, Singapore)、 2011 年 6 月
「Dear American Road: Annie Proulx の *Postcards* におけるロード神話の暗転」（日本アメリカ文学会関西支部 9 月例会、京都産業大学）、2011 年 9 月
「災害の「いま」をめぐって：物語・戦争・動物」（アメリカ学会第 46 回年次大会部会、名古屋大学）、2012 年 6 月
“Literature at Crossroads, or the Outside of Japanese /American Fiction” (Crossroads/Carrefours International Conference, Université Toulouse) 、2012 年 6 月

“Writing and Translating Outside America in Contemporary American Fiction”（東京世界文学会議グローバル時代の世界文学と日本文学：新たなるカノンを求めて、東京大学）、2013 年 3 月

“War and the Contemporary Fabulist Narrative in/out of America” (War and American Literature: A Symposium Sponsored by the American Literature Association, Hotel Monteleone, New Orleans, USA)、2013 年 10 月

「アメリカをめぐる遠近法」（第 57 回日本アメリカ文学会関西支部大会フォーラム、龍谷大学）、2013 年 12 月

「男が男を反復するとき：越境作家とマスキュリニティの問題」（東京大学総合文化研究科言語情報科学専攻シンポジウム「翻訳とジェンダー：越境する文学の時代に」、東京大学）、2014 年 2 月

“Contemporary American Fiction: Writing & Translating with/out the Original” (International Translation Studies Symposium: Issues in Literary Translation, Yonsei University, South Korea) 、2015 年 5 月

「紛争と寓話が交わるところ」（日本英文学会第 87 回全国大会シンポジア「新しい Novel のかたち」、立正大学）、2015 年 5 月

「ハサン・ブラーシムの非常／非情世界：「翻訳」との接触をめぐって」（中東現代文学研究会第 17 回定例研究会、京都大学）、2017 年 1 月

「移民たちのアメリカと異国の出来事：21 世紀作家たちの「偶然の土着性」」（公開ワークショップ「アメリカ文学とホームランド」、九州大学）、2017 年 8 月

「現代小説がアダプテーションを偽装するとき」（日本英文学会関西支部第 12 回大会シンポジウム「アダプテーションの内と外」、京都女子大学）、2017 年 12 月

「移動と共感のエコノミー：21 世紀アメリカ小説とその外をめぐって」（日本アメリカ文学会第 57 回全国大会シンポジア I、実践女子大学）、2018 年 10 月

⑼　受賞歴

2013 年　本屋大賞翻訳小説部門（『タイガーズ・ワイフ』）

2015 年　北海道大学文学部同窓会　第 11 回楡文賞

2017 年　第 3 回日本翻訳大賞（『すべての見えない光』）

3.　主な社会活動

⑴　非常勤講師

酪農学園大学（2005～2007 年）

東京工業大学（2007～2008 年）

京都大学（2013～現在に至る）

東京大学（2014、2020 年）

放送大学分担講師（2016～現在に至る）

高知大学（2018～2019 年）

⑵　学会等社会貢献

日本アメリカ文学会（2003 年 4 月～）

日本英文学会（2004 年 4 月～）

日本アメリカ学会（2012 年 4 月～）

日本ジェンダー学会（2017 年 4 月～）

『早稲田文学』編集委員（2015 年 1 月～2018 年 6 月）